

# 愛の形——ハサミムシの母

岩手県北上市立和賀西中学校二年

菊池きくち

彩椋あやと

そして子どもたちは母親の体を食べ始める

母親は少しずつ体を失う

失った体は子どもたちの血や肉になる

ハサミムシの卵を守るのは母親

ハサミムシの卵を産むとき

すでに行方がわからなくなっている父親

子どもは父親の顔を知らない

卵がかえるまでの間

母親は卵のそばを離れない

餌を口にしない

ずっと世話をし続ける

卵がかえる日

孵化したばかりの小さな幼虫は

獲物を獲ることができない

空腹に耐えながら母親の体を集まる

遠ざかる意識の中

母親は何を思うだろう

どんな思いで命を終えるのだろう